

おお大勝利

令和4年度 山東サッカー一部報第5号 (5月26日)

サッカー一部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y3A 2連勝で県総体に弾み

5月14日(土) Y3A (U18 山形県リーグ3部Aブロック) 第4節東海大山形C戦が行われました。Cチームとは言え、全国大会の常連であるチームですから、当然気が抜けない。山東としては、1年で2部復帰を目指しているし、県総体に「勝ち癖」をつけて臨みたい。そのためにも、当然勝ち点3が欲しい。会場は山形明正G。「いつものお三方」**清野総監督(山東サッカー部後援会名誉会長)**、**工藤先輩(清野総監督と山東同期)**、**後藤報道局長**はいつも通りいらっしゃる。明正Gでの県リーグ¹は無観客となっているため、代表の保護者(カメラマン)以外の保護者の姿は見えない。

さて、試合が始まると、山東優勢に試合が進む。東海はGKとCB1枚がととても効いている。「このレベルの選手でCなんだもんな〜」とうらやましくなる。なんせ、総勢で100名を超える部員数ですから。関東でその規模の私立はまああるが、人口減少の著しい山形で、ですからね。しかも、**県内出身者しかいない。それで100名オーバーはすごい**。独占禁止法違反じゃないか、と羨んで言うておきます²。山東は前半2度ネットを揺らすも、オフサイドの判定。でもですね、後日ビデオでよ〜く確認しましたが、オンサイドじゃないかな〜(得点が認められるべきじゃないかな〜)。まあ、2部以下の県リーグは高校生が副審していることが多く、そういう「誤審」がまま見受けられる。それをあれこれ言っても仕方がない。**トッフの3年カナタ**がクロスを胸トラップで抜け出し、GKと1対1になったシーンも、**ボラン千の3年シュンスケ**が中央左を抜け出して右足つま先っぽいアウトでファーサイドに狙ったシュートも、相手GKにはじかれてしまう。山東押し気味だが得点のないこういう時にありがたいのが、「どさくさ紛れに」と言ったら聞こえは悪いが、相手のミスに付け込んでの得点。**カナタ**が相手DFのボールを奪い、GKとの1対1を制して**先制に成功**。前半1-0。

後半は、「もう一人のFW」として定着しつつある「**神町の星**」**1年ケンヤ**が、足元でボールを受けようとするカナタを追い越す「裏抜け」でチャンスを作り出す。そして、まさに彼がその裏抜けから、GKの頭越しのループを決め、**追加点ゲット**。これでだいぶ楽になりました。やはりファーサイドの選手が裏抜けするのって、相手としては守りにくい。マッチアップするファーサイドのCBは「(そのボールの対応は)自分のサイドじゃない」って思っちゃうし、ニアサイドのCBは視野に入らないところから(背後から)走られる

¹ 選手権にて明正Gを使用する場合は、有観客にするそうです。

² でも、これまでの東海のスタッフや生徒、保護者の努力でこのような人気を勝ち得ているんですから、それを悪いとは言ってはいけないでしょうね。

選手に気づきにくい。だから **DF たる者、裏にボールが出されたら、相手がいようがいまいが、味方が対応しようがしまいが、全力で走らなければならない**。これ鉄則。**右 SB で先発の 1 年ホスト、左 SH で先発の 1 年ショーゴ**と共に、今年の 1 年生の勢いを感じる。ケンヤが相手 DF にアプローチしてチャンスをつくり出し、ペナルティエリア外で GK がスライディングでクリアしたボールをカナタが拾って、無人のゴールへミドルシュートで **3 点目**。3-0 で山東の勝利。結局、「崩した」と呼べるような得点はなかったが、無事勝ち点 3 を得ることに成功。内容重視なんていう贅沢なこと、言う気はありません、どんな勝ち方でもいいんですけど・・・ただですね～、コーナーキックたくさん得たのに、全然得点できていないというのは、まったくもって頂けない。得点につながる気配もない（だれも飛び込んでない）。試合後、『走ったのにボールが来なかった』というまとめをしている内は、CK からの得点はないよ。最後は自分でボールに向かうんだよ。」とまとめました。

そして、**5 月 21 日 (土)** は**第 5 節長井高校戦**。今年 2 種技術委員長に就任し高校指導者を指導する立場となり、また、今年コブに目覚めて春の月山までスキーに行ったとうわさ³の方が長井高校を率いている。当初、鶴岡中央高校 G で行われる予定でしたが、県総合運動公園第 2 運動広場が使えるとのことだったので、1 試合のみこちらで実施へと変更となった。**実はその週、私が濃厚接触者になり、外出を禁じられた**関係から、この試合のレポートは、**2 年生きっての頭脳派の呼び声が高く (?)、馬術で鍛えた足腰で最近ビデオ係となっているヨシモト**にお願いしました。

曇り空の中始まった長井高校との一戦は、立ち上がりから山東がチャンスを作る。**3 年左 SB コンニャク**のスローインから**3 年ボラン千のグッチ**がコンニャクに落とし、それをコンニャクがスペースに入れると、**1 年 FW ケンヤ**が反らし、それをカナタが胸でナイストラップ、一気に駆け上がるも、得点には繋がらなかった。しかし、その後、鋭く縦を突く長井高校のペースに。山東 DF の裏への対応の悪さ、クリアの不安定さが出て、失点必至のシーンを作られる。しかし、相手のミスに助けられ、事無きを得る。そして前半 8 分**3 年ボラン千のシュンスケ**がスペースに入れたボールを**カナタ**がまたもや胸でナイストラップ、そこから持ち前の俊足を活かし駆け上がると相手ディフェンス 2 人を華麗に突破しシュート。**山東先制**。順調に試合が進む中、なんと**2 年右 SH マサツナ**が顔面でボールを受け、鼻血を出すと立て続けに**3 年 CB シカマ**が負傷、一時的に 9 人になるもなんとか凌ぎ切り、飲水タイム。飲水後マサツナに代わり**1 年ホスト**が右サイドハーフで加わる。

前半 23 分、なんとここで山東が失点してしまう。相手の 9 番が出したスルーパスに 10 番がダイアゴナルに走り出した。**3 年 GK ジャッカル**が前に出るもボールが溢れ、それを 10 番が粘り強くクロスしたボールがディフレクション、8 番が合わせ一点を返されてしまった。長井のペースが変わってしまったかと思いきや、前半 30 分**シュンスケ**から受けたボールを**カナタ**が目にも止まらぬ速さでドリブル、ファーに撃ったシュートは見事にゴール。2-1 となり、山東に流れを取り戻した。山東の好調は続き、前半 36 分**ケンヤ**が前にせり出した相手キーパーを見て冷静にループシュートを選択、ゴールネットを揺らした。危険なシーンが何度かあったが、**2 年 CB ヤマト**率いる献身的な

³ うわさなどと書きましたが、一緒に行ったのは私です。

ディフェンス陣と相手のミスが相まって、失点は一点に抑え、3-1 でリードし前半を終えた。

引き続き後半では、怪我から復帰し、ブランクがありながらも衰えを見せず活躍した **3年右 SB タリョウ** に代わり **3年ミスキ** が投入された。右サイドハーフだったホズトが右サイドバックに、右サイドハーフにミズキが入る形で後半が始まった。後半序盤からミズキが積極的に得意のクロスを上げるも決まらず。ところが、後半 8 分 **ミスキ** がスローインからカナタとのワンツーで抜け出し、迫った相手を吹っ飛ばして、センタリング。相手がカナタに引き付けられたことでフリーになった **ケンヤ** がそれに合わせシュート。 **山東 4 点目** を上げる。右からのクロスで GK の圧を交わすように左足で合わせた技ありの得点だった。

飲水が入り、シカマに代わり **2年ユウゲン** に選手交代。右 SB だったホズトが右 CB に、その右 SB にユウゲンが入り、その後の試合が始まった。相手に疲れが見えたか、山東が高いボール支配率を維持したまま試合が進み、終盤になると、FW ケンヤに代わりアスキーFC 出身の **1年ソウタ** が、**3年左 SB コンニャク** に代わり **1年山 F 出身のソノベ** とメンバーチェンジ。公式戦初出場となるソノベは、練習で見せたロングスローで終盤ながらも存在感を示した。そして試合終了。 **4-1 で山東勝利**。

全体を通して、**ホズト** のフィジカルを活かした落ち着いたディフェンス、**ショーゴ** のスピードを活かした積極的な縦への仕掛けなどなど、**1年生の活躍が著しく、素晴らしかった**。対して 2 年生は自分たちの危機的状況を今回の試合で再確認したはずだ。今後練習ではより一層頑張っていかなければならないと感じた。

ヨシモトもなかなかやりますね。映像でだいぶ確認したあとがうかがえる文章。ともかく、地区総体後、2 連勝で勢いをつけて県総体に臨むことができる。会場の光ヶ丘球技場は、中には入れませんので、一応無観客となっておりますが・・・応援よろしくお願い致します。なんとか、2 回勝って、主会期 (6/3~6/5) に残りたい！

5月28日(土) 県総体1回戦 東桜学館戦 13:00~ @酒田市光ヶ丘球技場
これに勝つと

5月29日(日) 県総体2回戦 米沢中央戦 10:30~ @酒田市光ヶ丘球技場

雑感あれこれ

紙幅に余裕がありましたので、つらつらと思うことを書きたいと思います。

中学校で進む部活動の地域スポーツ化の流れについて。

私は以前より、中体連を解体して、2・3校で合体してクラブを作るべきだと思ってきました。サッカー界では、クラブチームの隆盛(人数、実力ともに)、中体連の地盤沈下の進行が他競技より速く、中体連の未来に希望が持てない状況でした。正直、高校の強豪チームのスタメンはほぼクラブ出身者で占められ、クラブ出身者のプレーを中体連出身者が応援している状況。中学校では、1チーム当たりの選手数が少なく、「誰でも出られる」状

況にあって、試合経験が増え技量が向上するかと思いきや、チーム内競争の不在が技量を停滞させることが明らかとなりました。なので、いっそのこと2、3の中学校でチームを合体させて、人数を増やし、競争を促し、かつ、やる気のある顧問（2、3校の中には一人くらいいるだろうとの想定）に率いられれば、少しはレベルが向上するのでは、と考えてきました。

しかし、去年あたりから語られる部活動の廃止、地域のクラブ化の話は、中学校の活動から完全に部活動を切り離し、中学校の先生方が関わらなくてもいいようにする、というもの。プレイヤーズファーストの視点ではなく、働き方改革から来る大人の事情によるもの。これでは、活気のある活動を中学校世代で取り戻すことはできないでしょう。

私も、中学校のすべての先生が部活動に関わらなくてもよいと思いますし、やりたい人だけでやればよいと思いますが、指導に携わりたい中学校の先生への支援（校内の仕事の割り振り、出張旅費）、チームへの学校側の支援（施設利用、自分たちの学校のチームでもあるという根本的認識）がない状態で、一足飛びに地域スポーツ化するなんて、暴論だと思うし、土台実現しなさそう。

高校でも、選手の少ないチームが増え、合同チームが増える傾向にあります。中学校の話は対岸の火事と無関心を決め込むことはできません。と、こう書いていて、わかりました。私の（中体連への）提案は、すべての中学校が合同チーム化すればよい、というものです。私の案も乗り越えるハードル高そうですが、地域スポーツ化の話よりも絶対実現性が高いし、何より！ 部活動で熱心に活動したいという中学生のニーズに応えている（加えてやる気のある顧問のニーズにも）。そして、クラブへ通わせるのは、金銭的、時間的な関係で難しい保護者のニーズにも応えている。正直、大人の事情ばかりまかり通る昨今の改革話は、当の中学生不在の議論だな～と感じています。

ただ、これは（主に山形市の）サッカー界を見ていて感じる事。他の競技では、合同チームでは問題が解決しないほど、競技人口の不足の問題を抱えているのかもしれませんが。たとえば、私が一時在籍していた「うめばち剣友会（山形第八小学校の剣道のスポ少）」は現在存在していません。当然、中体連でも競技人口が圧倒的に足りないことでしょう。そういった場合は、「地域に一つ」程度の活動でも良いのかもしれませんが。

サッカーに携わる端くれとして、私もサッカーの競技人口の増加はうれしいのですが、少子化、人口減少の時代において、その増加が他の競技の人口の減少に支えられた「ひとり勝ち」でしかなく、他の競技の競技力を削っていることに思いを馳せたとき、非常に複雑な気持ちになります。